

第110回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年2月26日（月） 17：00－18：00

2. 場所：中央合同庁舎4号館共用1208特別会議室

3. 出席者

(1) 委員

宇宙政策委員会

後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、白坂委員、篠原委員、鈴木委員、松尾委員

(2) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

風木事務局長、渡邊審議官、滝澤参事官、松本参事官、山口参事官

(3) オブザーバー

森昌文内閣総理大臣補佐官

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：石井理事

(4) 関係省庁

内閣官房内閣衛星情報センター管理部：市川部長

総務省国際戦略局宇宙通信政策課：扇課長

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：上田課長

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：竹上企画官

経済産業省航空機武器宇宙産業課宇宙産業室：伊奈室長

国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室：村上室長

農林水産省D：東野研究総務官大臣官房技術政策室：斎賀室長

環境省地球環境局総務課 気候変動観測研究戦略室：岡野室長

防衛省防衛政策局戦略企画参事官宇宙・海洋政策室長：中野屋室長

4. 議事要旨

(1) 宇宙技術戦略について

宇宙事務局より資料1～3に基づき説明を行った。

委員からは以下のような意見があった。

○宇宙技術戦略策定の過程で、利用省庁を含めたコミュニティが形成されたことは意義深い。環境変化も踏まえつつ、ローリングを行っていくことが重要。また、技術が社会実装されていくことも重要であり、政府のリソースを戦略的に分配するのみならず、民間投資の拡大につながる、事業環境整備も必要。これまで工程表だけであったが、宇宙技術戦略によってコミュニティ、ローリング、社会実装を有機的に繋ぐことができるようになった。

○今後は、宇宙技術戦略と宇宙基本計画工程表をさせていくことが重要。

○欧州の技術ロードマップの議論においては、非宇宙業界の方々も欧州宇宙機関に意見をしている。ローリングに当たっては、関連業界以外にも、フェアな視点を持った人の意見も取り入れてほしい。

○宇宙安全保障の観点でも、商業宇宙基盤は欠かせないものとなっており、宇宙技術戦略は非常に重要な戦略となると思う。特に今後は、社会実装と商業化のスピード感が重要である。そのためには、開発を継続すべき技術の取捨選択も必要になるだろう。

(2) H3ロケット試験機2号機の打上げ結果について

文部科学省より資料4に基づき説明を行った。

委員からは以下のような意見があった。

○H3ロケット試験機2号機の打上げ成功は大変喜ばしい。日本の宇宙輸送に対する社会的・国際的な信頼も高まるだろう

○国際的にも、SLIMの月面着陸成功とH3試験機2号機の打上げ成功が続いたことで、日本の宇宙開発が前向きにとらえられている。今後の打ち上げも着実に成功させ、信頼性を獲得し、コストダウンにも取り組むことで、米国のスペースX社に次いで選ばれるロケットを目指してほしい。

以上